

◇平成31年／2019年1月号 第92号◇



フジサンケイグループ

会 産経国際書会 報

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



風岡五城理事長 揮毫

「亥」—十二支の十二番目。地面に落ちた種子が発芽に備え、生命力を蓄えている状態を表しているとされます。また、猪は「無病息災」の象徴で、肉は万病を予防する効果があるとされ、「田の神」の異名もありました。猪と豚の区別のない中国では、多産から一家繁栄を意味し、金のアクセサリなどに使われています。



産経新聞社
事業本部長
伊藤 富博

書会の勢いを継続

明けましておめでとうございます。
旧年中は、産経国際書会会員の皆様方におかれましては格別のご支援を賜りました。あらためて御礼を申し上げます。

昨年は産経国際書会創立35周年を記念し、10月の「日本台湾交流書道展」をはじめ、様々な事業を企画し、いずれも成功裡に終わることが出来ました。今月の新春展で一区切りにはなりますが、多くの皆様から高い評価をいただき、感謝しております。

今年はイノシシ年です。イノシシにちなむ言葉というと、猪突猛進という言葉がすぐに浮かびます。あまり良い印象ではありませんが、昨年の勢いが衰えることなく、今年も書会の勢いを継続したいと思います。

その上で、今年も皆様に二つの誓いを立てさせていただきます。

一つ目は、引き続きにはなりますが、出品点数の増加です。昨年は前年を約400点も上回る6351点のご出品をいただきました。私どもとしては、作品の質の向上にも取り組みながら、出品点数増加を達成したいと考えています。

二つ目は、精力的な活動の継続です。昨年好評をいただきました在日本の各国大使らによる「書で結ぶ世界と日本」は今年も続けます。産経国際書会の特色である国際交流をさらに深化させ、魅力ある活動を進めて参ります。

以上は、いずれも皆様方のご協力がなければ実現できないことばかりです。引き続き、書会と新聞社が一心同体となって成功に向けて取り組みましょう。

本年もよろしく願いいたします。



産経国際書会
理事長
風岡 五城

更なる発展を目指して

新年あけましておめでとうございます。

書会の皆様におかれましてはお健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて昨年は出品点数が久方ぶりに増加に転じたこと、日本台湾交流書道展が大成功を収めたことなど嬉しいことが続きましたが、今年はその勢いに乗って更なる発展を目指し、充実した年にしていきたいと思います。

台湾との交流事業は実はまだ継続中で、この春には新春展会場に台湾側の作品32点を展示することになっています。合わせて出品者の皆様をお招きし、さらに友好の絆を強めて参ります。

出品数については昨年に引き続き、ご協力をお願いしなければなりません。記念展が済んだ途端にまたマイナスでは書会全体の士気にもかかわります。増えた主な部門は臨書部門でしたが、若い方たちにも取り組みやすく良い傾向だと思えます。

臨書部門が充実すれば創作活動にも大いに資するものがきっとあるに違いありません。今年から研修会でも臨書を取り上げる方向で検討が進められています。伝統書の方たちはもちろん現代書の方たちも大いに取り組んでいただいて、質・量ともに前進することを期待しています。

書会が元気になれば、会員の士気も上がります。その逆もまた真であり書会と会員は表裏一体なのです。皆様のご理解、ご支援を切にお願いいたします。

目標を高く

最高顧問 齋藤香坡



亥歳旦 本年も宜しくお願ひ致します。
昨年は書会は第35回記念展に際し、台湾書展に期待を寄せて228名の参加となりました。また本年は新たな年号を迎えての門出となります。しかし現実には年々老齢化につれ、楽観を許さず一部人事の若返りも視野に考える時かも知れません。適任適所、チームワークは組織上大切なこ

とですが、無理な行動は限度があり、そこで今ある組織の中で何が出来るかが課題となることでしょう。依って新聞社主催の一郭を担う立場として、会員諸氏にあっては、目標をより高い位置に確保されんことを祈念申し上げ、今年も風岡理事長中心の新路線が指示されることでしょう。

日々是好日

最高顧問 佐々木月花



あけましておめでとうございます。
新年を迎えられ皆さんお元気でしたか。私は今年百寿になります。なんと一世紀を生きてきました。今は「日々是好日」の近況です。良い音楽、美しい映像などに接したり、娘達が良い作品を書いたりしていると刺激となり、私も、もう一枚、一枚と制作意欲がわいてきます。

生涯現役をモットーにしてきました。若い頃のようにはいきませんが、しばし年令を忘れております。今年年号が変わるとの事、その新しい年も皆さんと一緒にガンバッていきたいと思っております。“己亥”良い年でありますように。

越年の希望

最高顧問 田中鳳柳



新年の会報原稿を忘れていて催促の電話、申し訳ないが忘却の状況であった。こうして今年一年も無事に乗り切れた。だから良しと妙なるところで納得する。

さて、新春を迎え抱負ということになると、何を一番に持ってくるのか迷うところだ。書会に協力できる体制作りには如何なる協力出来るかであろう。組織としての35年の歳月は書会の中

で確実に前進していると思う。それは「書は人なり」の連載等もおおいに役立っていると思う。書は古典を習うことで前進するのだから、結集する組織全体が協力しあって前進すればとも思う。

明時代の王鏊はいう「我れ他に望みなし 期するところは後日の史上に好書数行を留むることのみ」と・・・。

書の道一路の行脚

最高顧問 村越龍川



新年あけましておめでとうございます。
さて、私事ながら一昨年の12月、長年にわたり書を通じて、わが国の文化振興にいささかの寄与ありと認められ、平成29年度文化庁長官表彰を賜りました。この受賞は私にとって最高最大の慶事で、身に余る光栄、先年いただいた内閣総理大臣賞の栄誉とあわせて、ただただ感謝であります。これもひとえに、産経新聞社様、産経国際書会諸先生の無言のご高援と甚大なるお力添への賜物と、心から御礼を申し上げます。
私は、この4月に卒寿を迎えます。筆硯を無二

の友として、いつの間にか70年が過ぎました。このところ加齢のせいか体力の衰えを時おり感じます。しかし弱音は禁物、氣力と体力が続くかぎり猪突猛進で参ります。

論語に「わが道、もって之を貫く」の一節があります。孔子が弟子の曾子を論じた言葉です。私はこの孔子の言を念頭に、もっともっと心技を磨き、更にさらに書囊の充実に心して、今年もまた書の道一路の行脚を続けて参ります。

何かとよろしくお願ひ致します。

台湾の皆さんに日本の書作品を披露

実行委員 山本晴城

2018年8月、最後の会場打ち合わせに訪れたとき、中央の壁は真っ赤に塗り替えられていた。昨年は全てが白い壁面だったが、会場担当者の意向で変更されていたのだ。私たちは壁を白に戻してもらう交渉からはじめた。結果、日本側の責任と経費を負担すること、終了後は元に戻すことという約束で白い壁にすることを了承してもらった。

10月25日、陳列日の一日前に確認すると会場はきれいに白一色となっておりほっとした。展示作品は日台あわせて260点、会場は200点前後がゆったりと展示できるほどの広さである。計算ではギリギリ260点展示が可能のはずだが、果たしてどうなるか不安がよぎる。26日早朝、台湾で軸装された作品が2箇所を表具店から持ち込まれた。表具は満足のいく

ものでこちらの指定通りまですの出来映えだ。配置は役職順、幹部先生の作品は博愛芸廊の外のガラスケース、東西の文化芸廊に展示した。普通に仮置きしていったら、約30点が飾る壁面がなくなり焦ったが、作品と作品の間を縮めて再配置。全作品をぴったりと配置し終えた。勝田先生の緻密な計算に感謝。その後は、台湾側スタッフの手慣れた作業で作品を掛け、開幕をむかえた。

これまでの2年間の苦労もふっとぶ瞬間だった。多くの台湾の先生方、スタッフの皆様、日本の先生方、ご関係の皆様、何より今回の窓口として常に私たちに寄り添っていただいた張炳煌先生と田中靖人・産経新聞社台北支局長に感謝いたします。



左から梁館長、飯塚社長、張炳煌先生



台湾の人たちも熱心に鑑賞



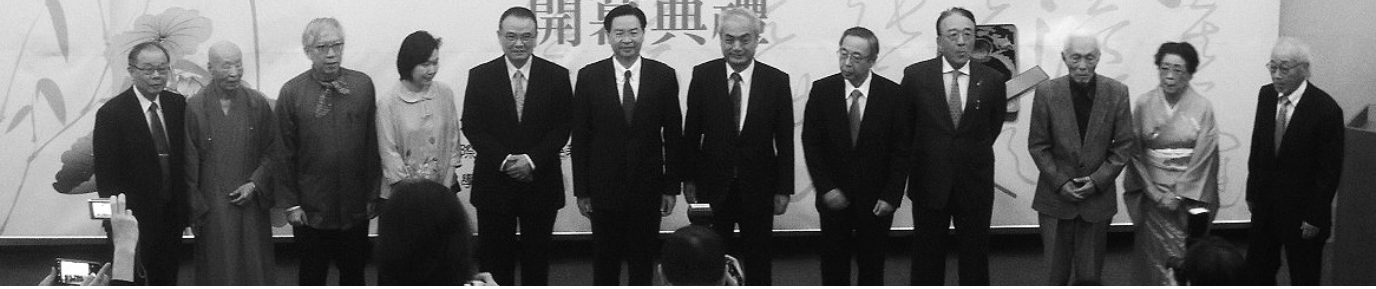
展示会場を見る



ガラスケースの幹部先生の作品

2018 臺灣日本 交流書道展

開幕典禮



テープカット前に(左から張炳煌先生、釋廣元さん、梁館長、張淑玲秘書長、蕭次長、吳外交部長、飯塚社長、風岡理事長、沼田代表、田中最高顧問、生田名誉顧問、山下名誉顧問)

華やかに開幕!

「2018日本台湾交流書道展」は10月27日(土)から11月4日(日)まで、台北の国立國父紀念館1階の博愛藝廊と両側文化藝廊で行われた。日本からは半切181点と小画箋2分の1(70×70cm)の47点、合わせて228点に台湾側の作家の作品32点を加えた合計260点を展示した。

開幕式は10月28日(日)午前10時から國父紀念館の講堂で行われた。日本からは飯塚浩彦産経新聞社社長を団長とした台湾公式訪問団が参加、梁永斐・国立國父紀念館館長の歓迎挨拶

に始まり、張炳煌・中華民國書學會会長から来賓、日本訪問団幹部の紹介の後、吳釗燮・外交部長と飯塚社長、蕭宗煌・文化部政務次官と田中鳳柳最高顧問、梁館長と風岡五城理事長の6人による記念品交換セレモニーを行った。その後、テープカットセレモニーに移り、沼田幹夫・日本台湾交流協会台北事務所代表、飯塚社長、風岡理事長、田中最高顧問、生田博子名誉顧問、山下海堂名誉顧問、吳外交部長、蕭次長、張淑玲・台湾日本関係協会秘書長、釋廣元中国書法学会理事長、張炳煌先生、梁館長の12人が登壇した。台湾側来賓の蕭次官、張淑玲秘書長が挨拶、日本からは飯塚社長、風岡理事長が挨拶、来賓として沼田代表が挨拶した。最後に張炳煌先生が御礼の言葉を述べ開幕式は終了した。

終了後は、来賓、訪問団、台湾書家がともに会場で作品を見て回り交流を深めた。

そして、その日の夕方、5時過ぎから、場所を大三元酒樓に移し、交流揮毫会を行い、記念の祝宴を楽しんだ。揮毫会では、最初に飯塚社長が「日台友好」と揮毫を行い、日本側が田中最高顧問、山下名誉顧問、生田名誉顧問、今口鷺外常任顧問、風岡理事長、坂本香心理事長代行、台湾側が蕭次長、梁館長、書學會の連勝彦、陳嘉子、葭平南の各先生、張炳煌先生の各6人が交互に続いた。約170人の楽しい集いとなり、「乾杯、乾杯」の掛け声が止まず大いに盛り上がり、さらなる交遊を深めた。(事務局)



さあ、テープカット



人生初めての揮毫をする飯塚社長

産経晴れの旅

実行委員 小川艸岑

日台交流展、祝賀会も盛会に行われ、三日目(29日)からは、いよいよ観光へ。今日は世界有数の文化の殿堂、故宮博物院へと一番乗り。

五徳が備わるとして珍重される「翠玉白菜」もゆっくり鑑賞、数々の豊かな至宝に触れ短時間ではあったが、至福の時を過ごすことができた。

昼食は中国建築が特徴の蒋介石夫人である宋美齡がオーナーであった格調ある圓山大飯店のレストランでのフルコース。午後は貿易商の街、織物や染色産業が盛んであったといわれ、百年前に栄えた三峡の赤レンガの街並みを散策。

四日目(30日)は台湾最大の陶磁器の街、鶯歌へ。尖山埔路老街には100軒以上の陶磁器店が集合。色々なお店を見て回り、高級な急須(水差し)も田中鳳柳先生(御歳86歳)の印籠のお陰で大幅に値引きされ、次々と先生方が買われる光景も。

昼食はテーブルごとにコックさんが捌いてくれる北京ダックに舌鼓。仏跳牆と呼ばれる伝統的な高級スープ等、豪華なフルコースにご満悦。お腹も満たされ一路空港へ。

色々行き届かぬ点もあったかと思われるが、産経晴れの楽しい旅となった。



故宮博物院で



鶯歌老街の陶器店で山下先生と



圓山大飯店の金龍庁で昼食(29日)



宜蘭の蘭城晶英ホテルで鴨料理に舌鼓(30日昼)

盛大に日台ジュニア交流会

教育部担当副理事長
産経ジュニア書道コンクール審査長
高橋照弘

2018日本台湾交流書道展の付帯行事として、10月27日(土)に台湾淡水の淡江大学で日台青少年書道交流が行われた。参加者はジュニア展の上位入賞者、特別参加の松山大学書道部員、受賞者の指導者、そして書会の福本雅保、高橋照弘、眞田朱燕、高野彩雲、随員員の23名。27日、台北に到着後、国賓ホテルに荷を預け淡江大学へ向かう。

大学では張炳煌先生、青少年等から熱烈歓迎を受けた。福本会長代行の司会進行により、張先生、高橋審査長が挨拶。張先生の書の学習の講義となり、続いて交流揮毫会となった。

はじめは双方とも緊張していたが日ごろ鍛えた学習の成果をすぐに発揮していた。終了後、静岡、浜松学芸高校の金原由依さんによる「かな」「カタカナ」について漢字からの発展についてパネルを使用した説明を熱心に台湾の青少年は耳を傾けていた。最後に参加者全員で2m×5mの大きな紙に寄せ書きをした。夕食時は揮毫者による作品交換会となった。役目を終え美味しい台湾料理を存分に味わい、日台交流会は大成功で意義深いものとなった。



張先生を囲んでみんなでパチリ！



揮毫する日本のジュニア



台湾のジュニア



揮毫した作品を披露

東北展

東北展実行委員長
松崎龍翠

会場●9月7日(金)～12日(水) 会場●せんだいメディアテーク

去る9月7日から12日まで、杜の都仙台のメディアテークにおいて、第35回記念産経国際書展東北展が開催されました。中央から特別展示された幹部諸先生の作品は勿論のこと、今展に展示された東北の作品も昨年にも増して、参観者より高い評価を頂き、実行委員会としても大変嬉しく思っております。今後とも、更に研鑽を重ね産経東北展の充実に邁進することを肝に銘じた書展となりました。

贈賞式では、産経新聞社を代表して伊藤富博事業本部長、国際書会より坂本香心理事長代行のご挨拶を始め、ご遠方より多数の役員諸先生のご来臨賜り衷心より感謝申し上げます。又、ご多忙の中、ご来駕を賜りました仙台伊達家十八代御当主伊達泰宗様にはご丁重なるご祝辞を賜り、今年の伊達政宗賞の五戸光

岳氏に賞状を授与されました。深く感謝申し上げます。

恒例となったギャラリートークも受賞者の苦心談も披露され、参加者の意欲も一段と感ずることが出来ました。

講演会は、今展の高円宮賞の理事長代行、坂本香心先生の、今まで書に取り組んでこられた貴重な体験と示唆に富んだお話しや、35回の記念事業である「日本台湾交流書道展」についてお話しになられ、一同感慨深く拝聴し意義深い講演会となりました。

今展を通じ地方における書道文化の醸成にささやかでも貢献できた自負に併せ、ご後援いただいた東北六県、仙台放送と関係者に深甚なる感謝の意を表し報告とさせていただきます。



作品を解説する松崎実行委員長



伊達政宗賞を第18代ご当主泰宗様より受ける五戸光岳さん



3×6の現代書が並ぶ東北展

第35回記念 産経国際書展瀬戸内展 贈賞式 祝賀会



瀬戸内展実行委員会

瀬戸内展

瀬戸内展実行委員長
世木田江山

会期●9月25(火)～30日(日) 会場●広島県立美術館

猛烈な降雨の続いた三日間、西日本豪雨は瀬戸内展出品者のとりわけ多い広島、岡山、愛媛に大きな被害をもたらしました。出品点数や参加者等多くの危惧を感じていましたが、沢山の方々のご協力のお陰で、第35回記念産経国際書展瀬戸内展は、広島県立美術館で例年通り無事開催されました。

昨年に続いて受賞者が多く実力の向上を感じさせましたが、今年は記念展らしくU23を中心に出品点数が増加し、展示数やパーティー参加者も増え、多数の功労者表彰もあってなかなかの盛会でした。

贈賞式には、伊藤富博事業本部長、風岡五城

理事長の挨拶を、祝賀会では広島県議会議員・奥原信也様、広島県書美術振興会理事長・村上俄山様のご祝辞をいただき、山下海堂名誉顧問の乾杯で祝宴となりました。慌ただしい時間でしたが、参加会員は、先生方との交流や互いの和やかな歓談の中に来年度への決意を固めて行きました。最後に実行委員の紹介、大庭清峰副実行委員長の閉会の辞があって盛会裏に終了いたしました。

ご多用の中、遠方よりご出席いただきました新聞社、書会幹部の先生方、またご来賓各位に厚く御礼申し上げます。



墨象と漢字がせめぎ合う瀬戸内展



ギャラリー・トークの賑わい

中部展

中部展実行委員長
村田白葉

会期●11月13日(火)～18日(日) 会場●名古屋電気文化会館



勢ぞろいした受賞者

第35回記念中部展は、愛知県美術館が改修工事のため名古屋電気文化会館での開催となりました。慣れ親しんだ会場に里帰りした感があり、作品の展示効果も素晴らしく、来場者の皆様に「産経展」の存在を十分にアピールできたのではと思います。

今回展も審査会員の「第35回記念賞」、「会長賞」、無鑑査の「産経準大賞」、会友の「第35回記念賞」、「会友特別賞」、一般公募の「愛知県知事賞」、「ニッポン放送賞」、「フジテレビ賞」、U23の「U23大賞」と各部門で特別賞を受賞され、中部地区の出品者の活躍は素晴らしいも

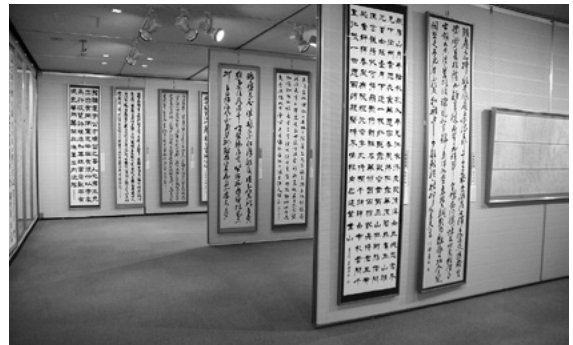
のでした。

18日(日)の贈賞式・祝賀会には大村秀章愛知県知事のご出席をいただき、産経国際書展に対する温かいお言葉を賜り、出席者一同、胸を熱くいたしました。続いてご来賓の手島泰六名誉顧問、今口驚外常任顧問よりご祝辞をいただき、盛大に開催できました事を心より厚く御礼申し上げます。

中部展実行委員会の先生方、関係各位には献身的なご協力をいただき、無事終了できました事を深く感謝いたします。



メイン作品を鑑賞



2×8作品が並ぶ中部展



中部展実行委員と書会幹部

関西展

関西展実行委員長
松井 玲月

会期●11月27日(火)～12月2日(日) 会場●大阪市立美術館

産経国際書展関西展は、11月27日から12月2日まで、大阪市立美術館にて開催されました。天候にも恵まれ、暖かくまずまずの入場者がありました。今回は第35回記念展ということで、先生方のご努力により、出品点数が75点増の455点となりました。限られたスペースへの展示、ご苦勞をおかけしましたが、ご来場の方々には、多様な書体があって楽しめましたと好評で嬉しい事でした。12月2日には、天王寺都ホテルにおいて贈賞式・祝賀会を開催しました。贈賞式では産経新聞社大阪代表の

片山雅文様と風岡五城理事長よりご挨拶をいただき、贈賞がとり行われました。今回はU23の出品数も増え、贈賞式への参加者も多く、今後への期待が膨らみました。祝賀会では、伊藤富博事業本部長にお祝いの言葉をいただき、山下海堂名誉顧問に楽しい乾杯のご発声で、宴に入りました。詩吟と剣舞の祝奏があり、その後、福本雅保会長代行による功勞者の紹介をしていただき、終わりに関西展実行委員の紹介をもちまして、無事終了となりました。皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。



文部科学大臣賞を受賞する野崎子慶さん



関西展幹部の作品



特別賞受賞作を見る



壁いっぱいにかかる作品

理事会で来期の概要決まる

平成30年度産経国際書会理事会が12月3日(月)、東京千代田区の大手町サンケイプラザで開かれました。はじめに産経新聞社の伊藤富博事業本部長から挨拶があり、その後、風岡五城理事長が議長を務め、議事を進行いたしました。事務局から11月までの事業報告、今後のスケジュールの説明があり、次に人事案の説明。執行部役員については、来期が2年任期の2年目に当たると言うことで、変更はなく、専管理事以下の役員についても少数の変更にとどめました。また審査会員、無鑑査会員、会友については、230人の昇格人事を発表し、承認されました。また、来年度の実行委員会や運営委員会については原則昨年度のメンバーが引き続き担当することで了承されました。(事務局)



【今年度の活動】

各部会会議・活動

総務部=7/3、教育部=6/6、6/13、6/17、9/12、企画部=7/3、研修部=5/10
会報・広報部=3/5、4/19、4/24、4/26、7/2、8/31、9/6、9/10、10/23
総務・企画部(大使館企画)=4/20、4/27、5/2、5/8、5/9.5/14、5/17
台湾展実行委員会=5/24、8/1

顧問会議

11/14 参加者=田中鳳柳最高顧問、石川天瓦、竹澤玉鈴、山下海堂名誉顧問、岩田正直、青陽如雲、田村政晴、納谷古石、原田圭泉、宮崎春華常任顧問、五十嵐光子、白崎菖汀顧問、伊藤欣石副会長と風岡五城理事長。

第35回記念 産経国際書展 新春展

◆会期 平成31年1月23日(水)～2月4日(月) 1月29日(火)休館
午前10時～午後6時

◆会場 国立新美術館 2階B・C・D展示室

◆入場 500円(大学生以下、65歳以上は無料)。

※1月31日(木)午後2時からギャラリートーク、同日午後4時から明治記念館で贈賞式・祝賀会を行います。

※今回は、代表展207点、新春展Ⅰ188点、新春展Ⅱ484点、合計879点に加え、「2018日本台湾交流書道展」で展示された台湾作家の作品32点を特別展示します。

新春展Ⅱの審査は12月7日(金)、東京・六本木の国立新美術館地下1階の審査室で坂本香心、高木撫松、高橋照弘、武富明子、松井玲月、松崎龍翠、村田白葉の7人の先生方により484点の作品の審査が行われました。

受賞者は以下の通り

〈会友奨励賞〉

浅岡桃苑、猪浦明翠、菊島克月、高橋岳城、福島翔鳳、山崎深翠、山崎翠嵐

〈産経新聞社賞〉

白井桂喜、島田昌広、土肥紫風、藤原彩園、前田崇見、山崎佳秀

〈奨励賞〉

秋廣浩恵、岩井玲翠、岩崎清楓、浦野博夫、大塚美雪、菊米紀子、岸白露、北野寛子、絹本竹里、木村北斗、小林恭子、齋藤春香、篠原良栄、杉原真里子、清黄華、常松真紀、土肥香風、中村葵祥、野崎秀扇、濱和宏、半谷松華、東浦幸平、松岡静香、望月和光、森井爽生、森田三鈴、安田琳華、横田香藍、吉原輝舟、連由貴子、藁科紅潤



受賞者が
決まりました!

第36回 産経国際書展 募集要項

1. 複数出品の料金は3,000円です。
2. 第2分野の料金は10,000円です。

【出品資格】 18歳以上の方ならどなたでも、但しU23は高校生以上23歳まで(2019年4月1日現在)

【作品部門】 (各部門とも未発表作品に限ります)

- 漢字部門：A 20字以内 B 21～200字以内 C 201字以上
- かな部門
- 現代書部門：A 少字数書(4字以内) B 近代詩文書(漢字かな交じり文) C 墨象
D 刻書
- 臨書部門：A 漢字 B かな ※出典は自由
- 篆刻・刻字部門：A 篆刻 B 刻字 ※この部門は第1分野です
- U23部門：年齢制限(高校生～23歳)のみ、すべてのジャンルの書作品を同じ土俵で審査します。

【作品寸法】 (仕上がり寸法を基準とする)

第1分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法=基準寸法
A	240cm×60cm	8尺×2尺(242cm×61cm) 縦のみ
B	180cm×60cm	6尺×2尺(182cm×61cm) 縦横自由
C	135cm×105cm	4.5尺×3.5尺(136cm×106cm) 縦横自由
D	135cm×70cm	5.8尺×2.8尺(176cm×85cm) 縦横自由
E	180cm×90cm	6尺×3尺(182cm×91cm) 縦横自由
F	120cm×120cm	4尺×4尺(121cm×121cm)

※紙寸法聯落以上の作品であること(但し一つの詩・詞で半切2枚の貼り込みは可)。

※篆刻・刻字・刻書は規定以内であれば自由。

※「かな」の小作品でも、上記規定寸法A、B、C、D、E、Fに貼り込めば第1分野と認めます。

第2分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法
G	135cm×35cm	小画箋2分の1・縦横自由
H	70cm×68cm	小画箋2分の1・方形のみ

※半切は種類により寸法に多少違いがありますが、1～2cmの誤差は認めます。

※「かな」の小作品は、上記規定寸法F、G以外でも第2分野として認めますが極端に小さい作品は不可。

【出品料】 一般部門 第1分野(税込み) = 1点13,000円、第2分野(税込み) = 1点10,000円
※日本国籍以外の方1点 = 8,000円
U23(高校生以上23歳まで)部門 = 1点5,000円、但し「2019産経ジュニア書道コンクール」高校生A部門出品者はU23部門の出品料(1点)を無料とする。

※分野にかかわらず複数出品の場合(2点目以降)1点3,000円

【賞】 高円宮賞、産経大賞など特別賞と特選、秀作、入選など。
【応募締切】 2019年5月7日(火) 午後3時までに指定表具店(別記)に搬入をお願いします。
【発表】 2019年7月中旬 産経新聞紙上にて。
【贈賞式】 2019年7月31日(水)、明治記念館(東京都港区元赤坂)
【展覧会】 会場：東京都美術館 東京都台東区上野公園8-36
会期：2019年7月27日(土)～8月3日(土)
開館時間：午前9時30分～午後5時30分 入場は5時まで
入場料：500円(心身に障害のある人と付き添いの方1人、65歳以上、および学生は無料)
展示作品：秀作以上の入賞作品、地方展(東北、瀬戸内、中部、関西)展示エリア以外の入選作品

特別色紙展

高円宮妃殿下からいただいた御題は「徳」または「雅」です。色紙(273mm×243mm)にお書きください。昭和14年以前に生まれた会友以上の先生方で本展出品者に応募資格があります。出品料無料、展覧会終了後、額装の上返却します。

問い合わせ 詳細な募集要項と出品票は産経国際書会までご請求下さい。

第36回 産経国際書展 審査員

●特別選考委員

伊藤欣石、石川天瓦、岩田正直、風岡五城、齋藤香坡、晋鷗、竹澤玉鈴、田中鳳柳、手島泰六、堀晃和、村越龍川、山下海堂、吉野毅

●審査員

漢字／今田篤洞、岩下鳳堂、大田桂水、大庭清峰、岡崎洋翠、勝田晃拓、五月女紫映、坂本香心、眞田朱燕、高木撫松、玉木白雲、鶴田秀紅、野尻春華、眞々田壽扇、平岡雄峰、平方峰壽、山本晴城
かな／石川溪舟、伊藤春魁、今口鷺外、鎌田悠紀子、白崎菖汀
現代書／生田佳葉、遠藤香葉、及川扇翠、菊山武士、高頭子翠、田島青谷、中西美蕙、早坂喜伊、藤井峯子、堀江宣久、松井玲月、ラモス逸子、渡邊麻衣子
篆刻・刻字／石井長慶、岩浅写心、渡邊麗
臨書／金丸鬼山、齊藤華秀、青陽如雲、高橋照弘、田村政晴
U23／影山瑤琴、武富明子、長谷川明扇、松崎龍翠

※平成30年12月3日現在

2019産経ジュニア書道コンクール

高校生A部門の出品料は3,900円。軸装にして返却します。

※返却料はご負担ください。

開催要項

会 期 2019年7月27日(土)～8月3日(土)
 午前9時30分～午後5時30分(最終日は午後2時30分まで)
 前期＝7月27日(土)～29日(月)
 後期＝7月31日(水)～3日(土)
 ※7月30日(火)は展示替えのため休室

会 場 東京都美術館 2階第4展示室
賞 文部科学大臣賞など特別賞。推薦、特選、秀作、佳作となります(中学生以下)。

贈 賞 式 2019年7月28日(日) 高校生：午前11時～
 幼・小・中学生：午後2時～(予定)

審 査 員 2019年4月中旬に発表します。審査長は高橋照弘、実行委員長は真田朱燕。

発 表 入賞者氏名は2019年7月中旬の産経新聞紙上(予定)で発表します。

募集期間 2019年4月1日～6月3日消印有効

搬入場所 〒234-0054
 神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12
 藤和額装内
 「産経ジュニア書道コンクール」係
 ☎045(833)5273

出品要項

応募点数 一人何点でも可 **応募資格** 幼年、小学生、中学生、高校生

出品規定

書 体		幼 年	小学生	中学生	高校生	
		楷書			楷書または行書	自由
大きさ	A部門	八つ切り			小画仙たて半切 〃よこ半切	
	B部門	半紙(縦のみ)			半紙(縦のみ)または半切よこ 4分の1縦横自由	
作品への名前等の書き方		年齢と姓名 姓名どちらかでも可	学年と姓名 小1、2年は姓名どちらかでも可		名前(姓不要)の下に書または 臨と墨書	
出品票		漢字でフルネームを記入し必ずふりがなを明記し、作品の左下隅に貼付			臨書は法帖名、創作は題名を備考欄に記入	

※八つ切り＝半切4分の1(たて68cm×よこ18cm)、小画仙たて半切＝たて135cm×35cm、小画仙よこ半切＝たて68cm×70cm、半切よこ4分の1＝たて34cm×35cm

※多少の寸法誤差は認めます。

※規定の出品一覧表を添えてください。

	規定の漢字数	参考課題	
幼年	規定なし	やま	ことり
小1	規定なし	とんぼ	ひまわり
小2	規定なし	王さま	そよかぜ
小3	漢字1字以上	友だち	はずむ心
小4	漢字2字以上	考える力	花さく里
小5	漢字3字以上	大空の旅	日本代表
小6	漢字4字以上	真理を追求	東京五輪
中学	漢字4字以上	温故知新	学道則愛人
高校	制限なし(一字書から多字数)	臨書あるいは創作(書体自由)	
国際	規定なし		

※国際は外国人または国外在住の日本人

※参考課題は、A(八つ切り)部門、B(半紙)部門共通です。

出品料

	中学生以下	高校生	国際
A部門	1,000円	3,900円	600円
B部門	600円	600円	600円

※金額は税込み、高校生A(たて半切、よこ半切)部門は軸装料含む。また、軸装作品は展覧会終了後、返却します。※但し、返送料をご負担ください。出品料は下記銀行口座にお振込みください。

みずほ銀行 大手町営業部 普通2786314 口座名：ジュニア書道コンクール

募集要項、出品票、一覧表は産経国際書会事務局☎03(3275)8902までお問合せください。

一式資料をお送りいたします。



ホテル横浜ガーデンにて、10月6日に「高円宮賞受賞記念祝賀会」を開催いたしました。短期間の内に開催日が決まり、会場の都合により、多くの人をお呼びすることができず誠に申し訳ない思いでした。この度は、産経国際書会会長の飯塚浩彦産経新聞社社長はじめ理事長の風岡五城先生、書会の皆様や横浜21世紀書会ほかの方々にご指導いただきました。また、宴が始まる前に内閣総理大臣賞を受賞された岩間清泉先生が8月にご逝去されました。運営委員からのお付き合いだけに大変辛く寂しい思いです。

ご臨席いただいた皆様と黙祷をさせていただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

また、皆様には身に余る心温まるご祝辞をいただき心より嬉しく思いました。今後はこの思いを大切に受け止め、産経国際書会の益々のご発展を祈念申し上げます。 坂本香心

書展 トピックス

大久恵華 書の小品展

会期●8月17日(金)～19日(日)、24日(金)～26日(日)
会場●ギャラリー ル・オンブラージュ(山形)

大久恵華

ふるさとの山形で書を身近に感じてもらおうと、家庭に飾れる書を中心に、自分の詩と言葉、13点を展示しました。産経新聞はじめ、地元のメディアに取り上げて頂いたこともあり、連日大勢の方々に賑わいました。初めての個展であり、いろいろな方との出会いもあり、心に残る書展となりました。会長賞をいただいた年に個展を開催出来たこと幸せに思っております。



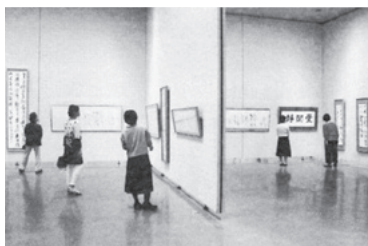
第35回日本総合書作院展

篠原秀朋

会期●9月4日(火)～9日(日) 会場●大阪市立美術館

我が国の伝統芸術である書道を通して心身の鍛錬と書写技能の向上及び書道文化の振興を目的として実施しております。作品は伝統書で漢字部門、仮名部門、臨書部門、水墨画、刻字など、二尺×八尺から色紙作品まで約1000点の作品が展示されました。

幕開けは台風21号のため閉館となりましたが、大勢の方々にご来館いただき無事盛会裡に終える事ができました。



書業五十年記念第8回 野崎俊江かな書展

野崎俊江

会期●9月11日(火)～16日(日) 会場●銀座鳩居堂4階

かな書展を今年の9月11日～16日まで銀座・東京鳩居堂画廊にて開催。仮名作品26点、和歌から俳句などを展示しました。連日ご多用の中、皆様方にご高覧戴きまして誠に有難うございました。難病指定になり、日々薬づけの日々ですが、好きな書の道に邁進出来、好評の内に終了。誠に有難うございました。



高橋照弘書展

会期●10月5日(金)～10日(水)
会場●有楽町マリオン11階 朝日ギャラリー

金文、隸書、行書、楷書など多岐にわたり、濃墨、淡墨を巧みに使い分けている。いずれも伝統書道に立脚した現代書21点を展示、全てが新作。個性豊かに如何なく発揮されている。会場は明るく雅やかな世界を醸し出していた。



第50回一焯会書展

会期●10月18日(木)～20日(土) 会場●銀座洋協ホール

石川天瓦

今回の50回展では、初代小川瓦木、二代佐藤青龍、各会長の遺作を展示出来たことで、お二人を知らない新しい会員や来場者にも、改めて一焯会の伝統と、自由な創作態度を知って頂き、会は盛会裡に終了した。今後は、会創立に当り小川瓦木会長が「書道界で会員一人一人が焯めく作家に成るように」と命名した「一焯会」の会名に恥じないよう全会員で研鑽を積んでいく覚悟である。



「書・墨・アートVol.9 渡邊麗展」書・人・自然

渡邊麗

会期●11月6日(火)～12月2日(日) 会場●区立杉並芸術会館「座・高円寺」

一昨年文化功労者の建築家・伊東豊雄氏の設計の区立杉並芸術会館「座・高円寺」が建設9年目となり、その座・企画「渡邊麗個展」も今回で9回目となった。毎回テーマを変えて、今を生きる生き方を探求した現代書を発表。今回の「森羅万象」作品は夏真っ盛りのハヶ岳高原で取り組み仕上げたもので、320×320cmの天井までの迫力サイズで皆の鑑賞眼を満足させた。

今年は「座・高円寺」も10周年を迎え、私の10回目の個展の依頼も受けたので、同時期に発表予定です。

20周年記念輪の会書展

小野亭良

会期●11月8日(木)～11日(日) 会場●大阪くらしの今昔館企画展示室

大阪くらしの今昔館で5年に一度開催している輪の会書展です。濃淡墨で少字数書、近代詩文書、墨象の現代書を自分たちの思いをこめて68名が出品。858人の入場者を迎え盛会のなか、終了致しました。この会場は外国の方に人気があり20%は旅行中の方々でした。期間中あたたかい御声援をいただき心より感謝申し上げます。



第30回記念書心会書展

会期●11月9日(金)～11日(日)
会場●所沢市民文化センター ミューズ

加藤深流

初日はあいにくの雨でしたが、産経国際書会からは福本雅保会長代行に遠路ご来駕賜り、また桑原喬先生にもお越しいただき、それぞれご指導を賜り恐縮いたしました。10日の授賞式には遠く新潟県など県外からも多数の出席がありました。秩父のほうしょう幼稚園のかわいい受賞者には、思わず拍手のわく楽しい授賞式になりました。

なお、会場の補強工事のため来年はお休みすることになっています。いろいろと有難うございました。

第35回記念CMO展・近畿席書会

会期●11月17日(土)～18日(日)
会場●藤井寺市民総合会館

正川子葉

今展は、35年の歴史をもう一度写真、映像で振り返り、新しい年号の発足にふさわしく、心機一転の思いで構成しました。今までにない「書を楽しむ」に着眼点を置き、世の中に広く受け入れてもらえる努力を講師一同とともに目指して参ります。

私の書業50年の感謝を込めるとともに、本会を次世代を担う子供たちにしっかり手渡せる内容にすべく、会の代表を生田佳葉に引き継ぎます。更なる発展を期待し、努力邁進するつもりです。今後ともよろしくお願い致します。



第15回照葉会書展

竹澤玉鈴

会期●11月21日(水)～25日(日) 会場●川越市立美術館

おかげさまで一年おきの開催の照葉会書展も15回、30年となりました。会員の作品はいつも心に思っている事、母への感謝、亡き夫への語りかけ、旅行の思い出など、また忙しく毎日眠くて眠くて…など身近な事でいっぱいでした。懇親会はお客様をお迎えして100余名の和やかで楽しい会となりました。ありがとうございました。

國井誠海記念館寄贈作品展に山形市長ら来館

「公益信託國井誠海書奨励基金」の二十周年記念書展(2017年9月、上野の森美術館)で寄贈された顕彰作家の作品42点を展示する作品展が10月4日から28日まで山形市の國井誠海記念館で開催。初日の特別御観覧会には誠海母校の山形商高OBらが多数観覧、27日に佐藤孝弘山形市長が来館した。山形商高は昨年創立100周年で、誠海長女の渡邊麗誠心社会長は、誠海作品「慈」を寄贈。佐藤市長(写真右)から感謝状を贈られた。



菊山武士氏が東京都美術館「見る、知る、感じる——現代の書」に出品



菊山武士専管理事(輪の会)が出品している東京都美術館の企画展「見る、知る、感じる——現代の書」が11月18日に同美術館地下のギャラリーA・Cで開幕しました(1月6日まで)。産経国際書展をはじめとする公募展を舞台に、古典を継承しつつ現代の書のあり方を追求している40代~60代の書家6人が出品。菊山専管理事は、「あめ」をテーマにしたシリーズなど9点を出品。12月1日にはギャラリートークも行われました。

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈平成31年1月~3月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第18回泉の会新春作品展	1月8日(火)~1月13日(日)	四街道市市民ギャラリー	泉の会	梶谷綾泉
第17回書道五月女紫映社中展	1月20日(日)~1月26日(土)	東京交通会館2階	書道五月女紫映	五月女紫映
第37回埼玉県中央書道展覧会	2月1日(金)~2月6日(水)	上尾市民ギャラリー	埼玉県中央書道人連盟	桑嶋水蓉
加藤深流米寿書作展	2月5日(火)~2月10日(日)	鳩居堂画廊3階	書心会	加藤深流
第82回龍峽書道展	2月6日(水)~2月11日(月・祝)	東京都美術館	龍峽書道会	林龍成
第37回全国公募・学生部併催煌心展	2月13日(水)~2月19日(火)	東京都美術館	煌心書道会	松崎龍翠
第34回景雲社「絆」書道展	2月13日(水)~2月20日(水)	磐田市立中央図書館	景雲社	勝田晃拓
第58回同巧会書展	2月19日(火)~2月24日(日)	銀座かねまつホール	同巧会	青陽如雲
第30回記念書成会書展	2月19日(火)~2月24日(日)	セントラルミュージアム銀座	書成会	田村政晴
書成会書展第30回記念田村政晴書展	2月26日(火)~3月3日(日)	セントラルミュージアム銀座	書成会	田村政晴
第40回選抜研墨展	3月11日(月)~3月16日(土)	小津ギャラリー	研墨書道会	島村裕堂
第48回安らぎと触れあいの書展 第35回書のコアコメントルぱくりん	3月12日(火)~3月17日(日)	鳩居堂画廊3・4階	墨林書道院	遠藤乾翠
第47回八戸臨泉会書展・ 第70回八戸臨泉会学生書道展	3月16日(土)~3月17日(日)	八戸ポータルミュージアムはっち	臨泉会	佐々木月花

催事一覧

催事名	展覧会場	作品締切	展覧会期	贈賞式会場	贈賞式日程
第35回記念産経国際書展 新春展(代表展併催)	国立新美術館		1月23日(水)~2月4日(月)10:00~18:00 (最終日15:00迄)1月29日(火)休館	明治記念館	1/31(木) 16:00~18:30
産経国際書会総会	大手町サンケイプラザ		4月16日(火)14:00~16:00		
第36回産経国際書展審査会	シアター1010	5月7日(火)	5月27日(月)~31日(金)		
2019ジュニア書道コンクール 審査会	東京都美術館	6月3日(月)	6月16日(日) ※18日(火)に作品整理		
第36回産経国際書展本展	東京都美術館		7月27日(土)~8月3日(土)9:30~17:30(最終日 は14:30まで)※7月30日(火)一部掛替えあり	明治記念館	7/31(水) 16:00~19:00
2019ジュニア書道コンクール	東京都美術館		7月27日(土)~8月3日(土)9:30~17:30(最終日 は14:30まで)※7月30日(火)一部掛替えあり		7/28(日) (予定)
夏期研修会	大手町サンケイプラザ		8月17日(土)、18日(日)		
第36回産経国際書展東北展	せんだいメディアテーク ギャラリー		8月30日(金)~9月4日(水)	ホテルメトロポリタン 仙台	8/31(土) 15:00~
第36回産経国際書展瀬戸内展	広島県立美術館		9月24日(火)~29日(日)	広島ガーデンパレス	9/28(土) 14:00~
第35回産経国際書展中部展	愛知県美術館 ギャラリー		11月12日(火)~17日(日)	キャッスルプラザ	11/16(土) 12:00~
第36回産経国際書展関西展	大阪市立美術館		11月26日(火)~12月1日(日)	天王寺都ホテル	12/1(日) 12:30~
理事会	大手町サンケイプラザ		12/3(火)14:00~16:00		
第36回産経国際書展新春展 (代表展併催)	国立新美術館		2020年1月22日(水)~2月3日(月)10:00~18:00 (最終日15:00迄)1/28(火)休館		

追悼

次の先生方が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

審査会員 佐藤 祥佳(平成30年11月) 会友 青根 千景(平成30年10月)

編集後記

新しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重け吉事 一万葉集一

35周年記念行事「日本台湾交流書道展」も皆様のご協力のもと、大盛會に終了することが出来ました。式典に出席された呉釗燮外交部長(外務大臣)は公式ツイッターに「素晴らしい作品を台湾に持ってきてくださった」と投稿し、産経新聞社へ感謝の意を表されました。

産経新聞社も「長年の台湾との友好関係をさらに強固にする重要な展覧会」とコメントしています。

また、新春展には、張炳煌先生をはじめ中華民国書學會の書家の作品も展示されることになり、一段と見応えのある書展になることでしょう。この国際交流での経験を生かし、さらに魅力ある国際色豊かな書会を目指し実現してゆきますように。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

小川艸岑

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

編集・発行 平成31年1月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。